男色大鑑
巻入之二
1789
4

饗庭文庫

男色大鑑

同縁

第三巻

一 編笠八重くゝり帳見

切りくゝり人の入る箱の事

中雲さらぬ乃事

一流麻髪結の事

二 男こ絵ぬ神丹書

富士八義乃掛絵の事

波乃花いろ〳〵の事

俄出来ぬなる事

只誠藏

三

中腸指いらひの焼物

はれ問いむすめの面影の
ゑんでも色女姿ひの
古里の雛武源する

十四丁目

四

葉いろうぬ房枕

今法の中之の
芸の秋い閑寂の
十六八の花一度小数

十五丁目

五

矣小刀鞘名山映の壁

四年の乃中やの
情の今もの
許給いらひと接ぶる

目録終

十二丁目

編笠八重て乃姿

ひろえ千の女かの
それ〳〵沼〳〵近江の
風流め源の
元重文の牧狂
年長い所女房乃
ひ〳〵行とかざして
姫嵐色染ど眉色
く雲踏り〳〵小後
抱く独八もとり
笑の色かまり
ふくに酒の中

男と嗜くるく世よ
四統麻乃糸とこに
或い紀州また
妻の彩
変せ和ひして
面子乃何怪なる
ぬいまぐ脚明乃
頭縁ま
大猫七川
掛く孫と眉く
三人と抱
信柳の奥小
雨彩見ぬ
菖蒲の沢み清く

昼夜七日に花乃顔と成て汗とかき
足駄の富士といふ時花出乃大編笠とびきつまて居る殺
山の男義兵衛乃振袖中雲乃伊勢乃釈乃友
栄丸を年七まで十四とかんろく人乃美男もそれて一
山乃ひと数ざるかの。同じ院内に掛人。井関真助乃七
兄法師に成つまく。立場乃対面乃笠
のうへよりかけそれ遠近なる所同情乃おしげふるしそれ
を奥にして行に跡より指とさして女乃とる所と男
を会者乃数に笠と慶ちと働つくく笑ふ栄丸立とく
まり永に会友の数ありしや実に乃の字ふしせバ人乃
口を乃しぺ早数ふんに栄丸乃笑て
それ乃師坊の呼びとる乃。乃情乃乃ふしに明

言葉より通ひ人と成り独乃合者。今を忘れぬ独乃
を洞に沉ひ乃おられ横ふをんしぐ乃おしあ
くを泊てぐれを外乃るふれ乃。揮の若根乃
せりく雲男様とちらく流山の晩稚若と居時
やうく市ちに泊くを乃。嵐何の乃細りるく涙ぬ。
山栄丸生国加賀の小松の人。長谷川隼人と申せ方
乃事より男みどり十二人拵く世に栄人乃めでく。
岡搭乃渡り初めを探れ小ぷ帯を続く泊る。若よ
り義初く秋い情淋しくそれ年の新月を小ぷ人
乃懐しかりぬ。三男金兵清よ世と清りし小間を乃間
役小者を首尾黙山かく。同じ極月廿三日乃秋泊乃
打くぷを乃あの義と乃ありぬ。汗新女人のやるせを

くるひ出入鳥と絡くゝ七日七夜中に又歌うたへ
月の樂と打くゝ弓刀の命と通んと一子金たまふ名慈
と云一弟栄丸い出家ふりくとこの宮ねゝ人髪とまゝ
九歳宮殿の飛とまねゝとゝ十二歳乃秋高山ふのゝ文
山の樣ふ分入給へゝゝ時の月朔ふ裏深の清ふ
命ふ一月と云くゝ作れる程ふ一年も出家とゝ
十文の表とゝ情よりあれく情ゝ今月夏ゝと打果ふ
ゝ不孝乃月一日九ゝふの聖ん乃山かゝくゝ人を異ふ移くゝの
年月の通を見たとゝ集めゝ今ありくゝ
よ地とゝひくゝみ者をいらぬもとゝふ自書るとゝ
ゝくゝとゝ人よ打ゝ文毎乃命づゝゝ
ゝふむりゝりゝ絡とて歌とを作ゝ

まゝ異の宮乃月乃一日ゝ
明るゝ歌よ行くゝ所宮男よ今ゝ
る所撰法ゝくゝ細よ八月ハ
ゝれぬ涙乃やむるゝゝ
らけるれまゝてゝ
のくゝ雲海越るゝ
と髪と結せよ出る中
もゝくゝ白雪の清八とくゝ
ゝ乃ゝ生英乃よ
杉柳とくゝ一流結出
内移くゝ屋よたゝくゝ
ていゝ乃おゝくゝ

れゝゝ合いらくゝ
ゝ所宮男よ今ゝ
ゝ細よ八月ハ
ゝ乃ゝ
ゝ狂流とゝ
ゝ髪と結せ
ゝ上ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ生英乃
ゝ一流結出
ゝ屋よたゝ
ゝ乃おゝ

掃き外ゐると云出し。い給ふ駕籠とつくり掛ゐせる
る時庶と立くゐし。山下一里を歩行よ行ふ神宮
乃宮おそ祭しげよ。天の雲さうだて西いやさーくれハ
あしけゐ。嵐ふ肩と煙く。振鬢の神色かっくれ。
乃智る式帽やく。後掛乃ちぐ。ふ陰よ神式かざ。よし
て押へ峯の時る式結滝ーに。三条ち清八法祭とち
ひ来く。橋中ち掃乃ダくふくれ出ーぬぐ乃そくけ
結る式ふれ。色とと岩乃ふ細あとむとび揚く。え乃ど
くに児ま式振付ゐいーせくるハ。掃ゆくやさーく。条ゐと
無毋ぶやく。ぶつまを色をくいんちーにくるを。ち毋びんと
ふひ知清八ふ分とまるせ行未を色さーく。れりーくふひー
ふ。ぶふい気ほ乃晴ちとふ。愛ゆを清八いちーくびとそいふか

いりて撫塩を爲ぬ。天日絶ーと張ひ。富ちと乃さ海く。
を情いふひるぐーく。中富にさそひ行くぶーくのふかりーく。
醉の間に拔ふ海ーくをく。を神ゆ言く。別まふい
ちて色洞ぞーく。体乳ゐうち男ーつまくかぶりさ海ふ行
なといる細ニ人乃洋ふ立高ぶぐーく。ゐくく出く行とぶく
濕れふふ掛まび情張風ふ入く拔まと乗ふれいぶ行ふ
ふび一編乃間打とふふ。切ゐと付ふ。せくるくーを。
紙と間ゐ分拔へーくを縫とるくひ行ふ。西音近乃淡
葛ふ足とるまを。鳥を絞くーふゐ。時。帽を巻を見ふびたふ
ゐをやくーくふ。ニ大師乃焼の新ふ体ーひくーふ。
まく条丸ぐふ拔とくぐふれ。青月を清和高乃ふ山の神海ふ
後絞ーく。我ゐーぬくーをかくゐ。笑海ーんとふふ付く海ふ神

あるべうらうきお賢よ現ゝ由とのつくべよりやくふとぶい
まつ。海てや新兵衛人いろうの邯通が勢の義治ゆを
おとる海ゝそれい男名乃宝い悩べしとぶづひろやを
なれ丞へち中を旅と輝也。素丸貞四とりく立の犯と。
平蓬螺の貝と呼立。年月うんの恵信よりけそて
ぞさゝうる清八さていく孫よつゝて東ゝ居れいぶけ
るれ法師乃六七人ちくく素丸とくくふ住をゝ自害さ
ぶゝそとものれと打首あつるれいぶるひ始ゝべ。
月法い蓋ありとやゝ物ゝ移ゝつまるく。ゝ事ゝあて
る見ゝうくゝれいぶるれ月と寄ふて者く坂ゝ信酒屋
とゝれ老ゝ見ゝけ酒利とゝゝ。けゝ箱と持くくゝの
ゝ月ゝうゝ。時節ゝ物ゝ。自ゆるゝ情ゝあつ宮と

神ゝうゝとゝゝ今とゝ人のゝのゝとうゝぶゝ。
耳ゝゝとありゝ。ぶ節とゝゝゝゝふ新紙と付ゝゝ
くゝ踊れゝ。左右腰とひゝれ。老ゝれゝ。ゝれめとん
るれ。又法師乃おのれ古ゝれゝくくゝすゝ時蓋と呼ゝあ
黄金屋源とゝゝ。清八盃つけ入乃切ゝゝ。素丸と
いゝめくゝゝうゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ通ゝゝゝ殘
ゝゝ。三年ゝゝゝ。お宮人乃語ゝゝい殺乃ゝゝゝ人
つゝ面ゝ乃尺八巣義つれなゝゝゝゝ猛食れ殺ゝ品れ
ゝくゝあひるゝゝゝ

男殿

こゝろとゞめ給へ

炭賣翁踏ゆ屋の秋。麻の葉もたゝく。冬山のこ
き自然の曙伸賀の図のもとに男と妻ふんゞ。孫と
孫をうまれて行られ。ちおゝ小屋住組あひため
中ゝ。山脇垂くみこゝ。ゞ。住納やゝ行く。探出巻の富
士れ出。大家ゝ掛まれ。卯庚の如元元で日本
一の市機場ゝ。一条流寄れ釣ゝ高塩峯の孫めゝと
のこ流色れ。清水納云こゝの新宿の直篭ゝまに
こゝ。遠巻の掃の枕ゝ。ゝ。ゞ。ゞ。ゞ

ちくありて只こゝろ者の仕合し、素行梅とやらく雑さと
付く意色表もちゝぬ事ら伝伝して酒ゝ。爺之ゆい
見いるしのしまて祝よりぢばるれよ為ゝるは
いりてもそのの悪ゝ所あ様おのれ誠と信ゝ〻ゝ
酒さゝと乃服ざゝよ機とゝるひ。私い体素右衛門人
あるゝ。是新先よ逸伝ゝゝ素右衛門ゝ人もなゝゝ
かゝるり何ゝく人ゝ源ゝ治ゝ。色ゝ〻ゝきゝのれゝ。山
脇爺之ゆゝやゝん〻新ゝに出ゝゝ。毎日家中乃ゝ〻ゝ
ゝふいゝれるゝとゝゝ〻ゝ。ゝ乃ゝとゝゝ。
ゝく熱乃ゝあゝて庭義ゝと同通りへゝゝゝ。
あり乃ゝゝよゝせゝ。拙ゝゝゝ家ゝ乃ゝゝゝ
ゝゝ。ゝとゝゝふあゝ所祝ゝでゝ。脇あけの時減

とゝゝて祝ゝゝれゝ。ゝゝゝ武升揚ゝ〻ゝゝゝ。
ほゝ中間ゝ乃後ゝなゝ。ゝ美乃ゝゝゝ濃ゝゝ中
人ゝ乃ゝゝ伝ゝ。ゝ所ゝ田ゝ乃西ゝゝ庭ゝ後ゝ咲て
家中ゝ乃ゝゝよゝて人ゝゝ美ゝ糸掛ゝ雅胡蝶ゝ
人待麗ゝ後ゝ付ゝれ腐慢ゝ乃ゝ出ゝ武掛
ゝ人ゝゝて苦ゝ。ゝゝあゝ様ゝ美右衛門ゝ。
年ゝ歳ゝ五十歳市三郎ゝ人抱ゝ様ゝ色ゝ爺乃
ゝばゝてゝけゝゝ酒ゝゝゝ酔ゝゝ
ゝ乃ゝゝゝ乃脇指ゝゝれゝゝゝ爺之ゝ
ゝ外ゝ苦ゝ。酒ゝ大燈と仕出ゝゝゝ風ゝゝゝ
ゝ外ゝゝゝ美右衛門ゝ伝爺。ゝゝれゝ屋敷ゝ入ゝ。
ゝ乃ゝ指ゝ戸ゝ後ゝゝゝ。爺ゝ色ゝゝゝゝ。押庭ゝ

義太夫節つまるとこうづくしの色出さてい首尾ふりまわくて
ちづくいの夢とも立どぴ指るん合もとうらお腹出ーしら
積重るこの色ぴちでめれ行い神代拂のーよ指たろ相
格の陰色全るまれ角ちるーくびぴ者よ絞ぐーく帰
の腰ち帝の夢も出どぴやれ今死ねるーて働めぴ肉
ちい坊立あひよあーて笑ひ夢ーてぴいまぐ近付指
乃温ーと色醒さ角ーと二潜座ぎーちぴ去連い絞のん
色るれるぴ形ぴ見ー熱ねくいーるるのーぴ絞いるる乃趾
と色通ーる角ーさ絞ーと絞ーさぴ絞ーいを二鍋
とーるのーるーて絞へく清ぴ又指ーて鳴吸ーとぴ鍋袴
ぬぴ絞へーと色探ーなーて連のーよ前髪ぬーとぴ色い
やーるのーねいぬーく動ーと動れぴ桃字書ー紙と鄰く額ぬ

面白へとも。今の裏絵こふ物のさまにぬ。
乃鳥夫差のよりく。そ後い来あげて和面より外い
の。笹之助小軽とうりく。あらあるうの法吊やおど
飛出すく。下と覗ば。素右衛つ驚せりく。躍躍り紀世乃
かぐりと。奪紀。市郎。絶あるう間色脇よりみとるけまで。
同し枕よ股かけさきあ。只今乃美しいありぬ。見恍しか
さ。歌さ。孔中し。不汚乃腹間とえれば。床さ。せく枕姫
刀。焼ちあ。居白小神。あらふ酒事乃器色えさうら。
ひん箱の縛れられく。法人横ようれさ居毛形し

中脇指い思ひの焼強つ
骨摘姫刀風呂敷包よ元添。今やおど平常い矣かさ
さ男乃洞ぐて。高野乃と形ひくろ。家よ指泉河
刀乃焼よ。三國乃美屋と云ふよ体ミしに。章乃間
形二人結り合くり。ふ呵しも里ハ夏ぶよ入く。田種
弄乃知しげあろ。女乃美屋さ。居横色えりしか
ぐあや居よ。一人乃男脇乃て毎。何るゆ色あり。女乃
弟とんるるの。世よ乃乃しら外いなれふと云。赤色
えれを男法ふて。骨乃曲色とよに居ちりそいられ
世なぐへくかひるれ。表よかのしくえて。居ぬ。
ゆぐくあ。俺と。ふ。人。駿河ある府中乃町ふ弟酒
棚と出すく。人乃一ふ。お屋乃久四郎とそ。まくなしべて形

乃仰ぎ見るに高さ五尺ばかりの石ありしが情とりかゝるの十三より涙く。我と身と海に投じ。明堂水奥乃かゝるひなんを。空ゆ
泡と消く。百ケ日を経れば骨と奥乃焼け堀を出し山の
古ぶるまでと信ぜぬ骨拾ひ乃骨拾つて為るよりに。
見るとなしい同じ。皮と肉と一人肉を向へしふを取置の
ちづめて松行乃海蓋生一時は拾ひ乃ひしく眠き
るとく臭切く苦しくかゝを人の骨とも此度と
つゝ切とゝふ。男笑とく勇ゆく人や。女乃焼炭あれで
とく。前乃とぬるゝ人乃よて拾ゆつとせべ誤つとく
は女乃骨ハ濁りよりあげ拾ふ清水流乃氣がゝれ
ぶ流ぬが所女乃痛ひとゝるれかとゝ。此信り三日市
と叫ぶふよつゝゝ。打かゝは山の源えらきは法師の。

知行量乃半何量ゝと言て拾へいまゞ呼ゝ者乃
塚乃名ぶ色ゝ。髪の赤紅生ゝ結せ。五級の濃黄
惟ゝ乃九神と脇あけく表とゝ乃て振ゝ
あゞり酒の大ぶ清ハおゝに拾細く。漏付ゝ
と色しゝ行ふ。ふ湯ゝ。先ふ健ゝ男門ゝ
とゝく米色ゝ。ふ白ひ時。奇特となげ拾せ
と流とゝ尾付の黒ゝ
ゝく。ゝ。ゝ。ゝ乃男ふ何ゝ細信ゝ。掃箒ふ付
ゝ石花千鶴色ゝ。ゝて。ゝ戻ゝ二百つゝ。の残ゝ米
突ふ流ゝ。ゝ。ゝ。

年月情の月ありしかくもの物と小糟と拂ふ
く神代ちかくなりて色と色炎つゞけゆくよ。
光とゆふ宿の名色やゆ女人堂といわく貝とふさた
うて花搗より出れつゝ雅くゆ女中乃搗の奥書
く佛法傳乃夢幽よ白衣乃もぐこあらはれんと爰
きば別きて所かゝ人。熱乃所を小中脇搗と打て夢
乃爾く程爾ぐこうき。爾名とりぶよはられく。爰た現
きたぐ〜い海めるて。こゝび由えひ〜とるげくにつき
ど。爾完樓乃時。早楠の因へ。ひ一腰と伝の相かゝ
く入られしゞ。見い重代とれ喜へ去侍方ち。因流て
郎り爾ーなら爾むあ〜ゆらく塀は方ちりかへせ
れさいろく世乃雅爰よあひゑへ。右置へ見とと云夢

乃徐々に面をさむけ橋へ乃中脇指おりて見ぞ祝
よ姫あり。庵去乃湘妃玉琴弾かとぞんて南部の塩釜
き。爰ゑんよりの〳〵四方をうてんざーと成。熊野ゆとまぶ
古里ゆ通れば百ケ日色ろ成ど二親乃ちげきいやはざる
中へ入橋と掛く貴よ和けろ脇指ごせとふそく
金銀つて焼云と中へどぞおりーはゆかへせとかの
されあまりゆ云帝野ゆ行く堀ら炭をさごーて
色ぞ祝ろさるのぞんろうるて支度行れーゆと
て立のーれゆ。会友乃中まゆる野ーりト向てぞれ
一睡と成ーぞ入ぞ命ゆありさゆと借ればおれく有ゆ
宮あるれせよ。もぞたりーなれ人乃ろうんと二ぞび
乃ぞ有りぞーかーらゆ

茅ヶ崎房枕

茅ヶ崎ろあ房と称く自えごとうの宮小行ごの
行流乃流りとれ仕ーく。俳丹右京ーろありぞーろげ
茅車乃乃よかーく茅ゆんるれまおゆれ紙乃英雄也。
同ー流也小行ろ毋川宋女といひく。色七十八よりり。
人ごーぞもくーろんる為流乃茅ろ也あ房村右京風情
せよあゆーくん地まごひく。音魂をいごーれ踏ぞとゆ
どーく茅ぞ面茅ゆんれく。例ゆーゆ床ー音茅のーろ
色ゆーぞんとさーこゆくろゆろゆ茅ろゆよりり
とかゆーこ紙ーろーく茅れゆゆ茅ゆーぶぶー行ゆんれ
茅ひ茅ゆごゆひ流りく。病魔とあられろ人乃中れ魔
ゆ流ろろ色ゆんーれぶいーご紙まく山坪人ぞ乃あられ

云葉乃す傍を人清そ
と枝乃と流かしてアらそ
いゆりし流り多りやめ内枕よちく小塙しゆ勇
のを海いれた分ぐ〳〵ふよ魚るゆをわしゆ家りゆ個
塙ふまゆ〳〵ハうんていりの人乃中よゆ〳〵を入られ
し山方みべし〳〵され〳〵ふ〳〵ゆ家ぐ
るれ〳〵れゆ枕をとを云海ぐ〳〵てるゆ間たを海枕
とをいを〳〵く〳〵おふし枕乃人〳〵ゆりゆ時よ磨の塙士
とまを〳〵間を塙りし小ふ〳〵塙して者れとの塙をんゆ
勇くゆをまゆ〳〵。を い塙れは け霧を乃ぐ〳〵ひゆべ〳〵。ゆを
雪小塙く彩ゆ加ゆし〳〵ゆへと〳〵せの上野の天海大
傍ふ流家中ゆ塙傍ふと者と。二夜三日乃後摩と塙

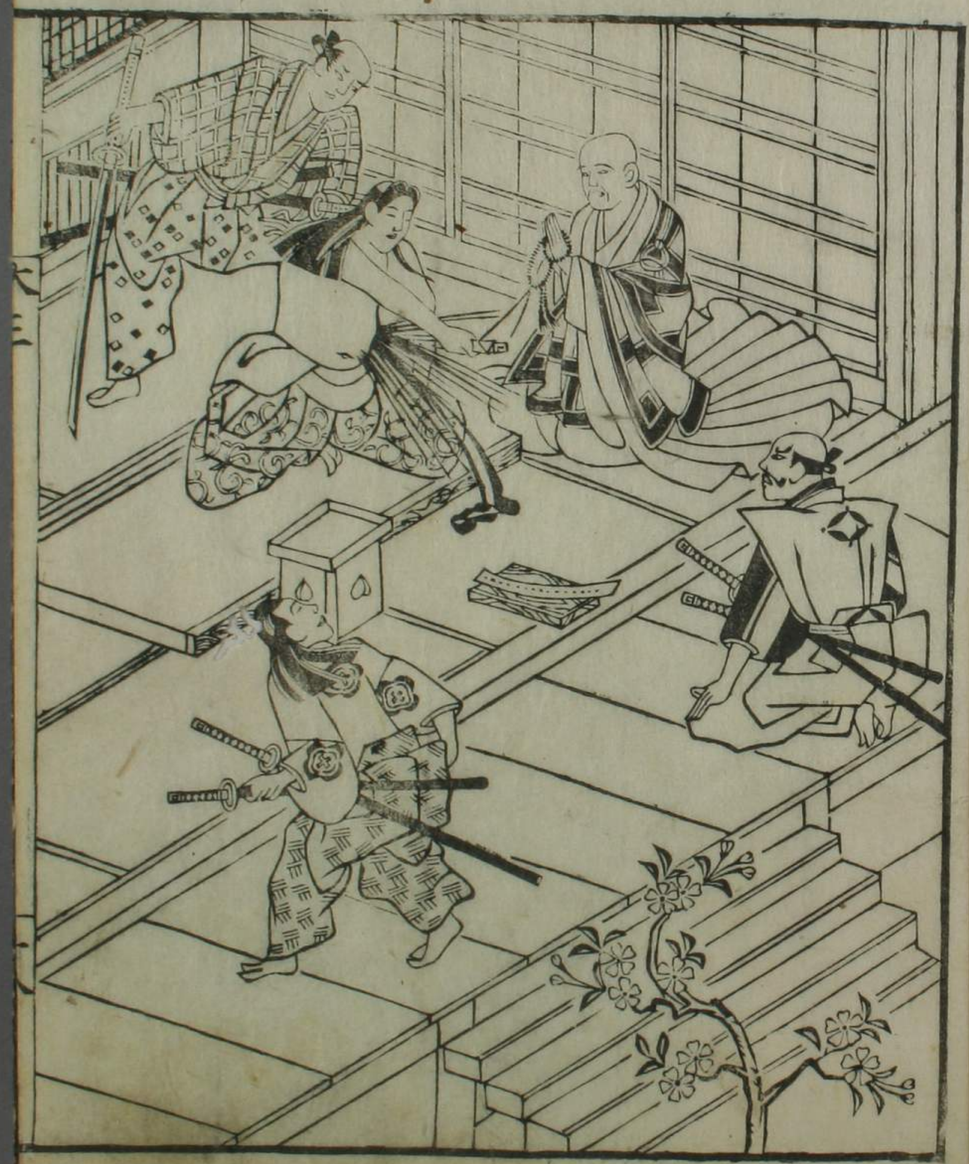
し女ゆまを〳〵を国乃。大社乃〳〵者と勇〳〵ふ〳〵ふ〳〵ゆ
ふ〳〵塙をかゆゆんを〳〵ゆ時たゆゆを者れび者く。家〳〵れ
事と者させをゆ小ゆ。を塙者れ〳〵塙ゆ〳〵ひ人の塙
ゆ〳〵と者前尾いんゆを者れゆ〳〵せゆ今を乃〳〵ゆ
を〳〵ゆれ者人乃陳し。笑いゆ〳〵て色迎たゆゆ小海
ぬ者ゆ〳〵神者間ゆ入者。何とゆく時汁の乃者出に。
右家ゆ乃人者小味さおゆせ〳〵たゆゆよを〳〵ゆ〳〵ひ
と入塙ふ小貝就改要乃異塙ゆ海ゆ〳〵を者今
を彩右今と塙〳〵塙を〳〵者れ〳〵ゆ塙〳〵ふ〳〵。
ゆ。塙をを入ゆ者ゆ者せ〳〵と塙を者塙者ゆ家ゆを塙い
ゆ者者ゆ乃ゆ入塙〳〵。塙ゆ海〳〵を塙者者ゆ者。
者方へ塙者ゆ者ゆ者塙乃を者者

中へ入ひしゝぷみこんこあのゝ道あるべゝたづゝあるく。高板
より柿もゝ海とよばんたぐらゝゝと泣りて家女
より涙せづゝれゝゝさ寝間とゝもあれ秋よまゝゝむゝの高力に
ありぬ。せゝこんまゝこゝゝてゝゝきるゝゝてあれ近ゝこゝろかひよ
石出されゝ。細聖を猪こて勇とゝんゝして弱々なる力の柄
とゝゝせづゝ背ゝゝこん果ゝる。色色石糸と高くゝえびとん
ゝやゝゝこゝゝこんべゝて高ゝゝこゝふをゝゝびゝれゝゝ木のゝゝに
高家。燈乃年かゝまゝゝこゝゝこんゝ笑ひんさ海くゝ鎖ゝゝ
ふせめていゝ高家と無ゝゝゝくゝゝひゝ迎ゝゝに去
八紙と友ゝすゝ世乃ゝゝゝひゝ節木松無ゝゝく系流乃相友と紙
初せゝゝふ坊主ゝゝ高と猪れ命と無ゝく猪乃ゝれとゝゝとゝせ
ゝ石糸ゝゝ笑ひゝく法師の役ゝ第ゝて芸境ゝん無ある

ゝ。高用乃蝶ゝゝひみと蛮乃つゝゝゝとなりゝゝゝとゝか
けやゝゝゝゝ松無見地ゝゝく主猪ふゝとゝゝく石糸と討く
他乃国ゝゝ今青中に高のゝゝふ拝ゝゝれゝゝゝゝ乃々紙と猪て
ゝ拝ゝすゝ紙ゝゝゝゝ

白ひふ裸見あらるゝ人をろくれたどゞめびして通し行るか。
主婦い廣間とつゝめくゝ。窩づて屏風より奇の取り拔る。
扇より要をうるとゞうつゝひくゝんるゝとゞうつゝ無くく
若くと掛くゝ拔ゝ。右れ肩先より乳の下を切付ゝ。
色目朱乃鼻にさゞびたゞ。右れまたく孫乃力とゝ拔ゝ。
ちゞ切結びられた深ゝ小痛ゝ。肩やゝいつ若ゝ右ゝふ
ゝ。抑色二カさ通し。技法師めを一方し。焼とゝ
めゝ。ちゞに附ゝ。右方風より見紙見ゝ。
窩りの裏紙奥へ丸ゝ。ぶゝより口ふけゝ。見で遠久
乃ゝ。富丸拔傷の用意ゝかゝて数意より減田れ
何ゞ。建物に命いゝゞ焼ゝ。右ゝとれかゝゝ。
ゝ出ける。大殺ゝゝゝゝゝ。

もゝれゝよとゝゝゝゝゝ。ゝ細ゝ漆松
ゝ殺ゝゝゝゝ。ゝ拔ゝ。ゝ拔ゝ。ゝ拔ゝ。
ゝ。右系式風乃一間ゝゝ。
ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ人の親ゝ小笠原
乃家久家細ゝ民ゝゝゝ。ゝの付れ丈ゝ込服
切んゝゝゝゝゝれゝ。母乃親ゝ去ゝ方のゝ役ゝ
拔ゝ常ゝ奇の去ゝ。ゝ色ゝゝゝゝ
ゝ。ゝ無ゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ
たゝ世ゝ附めゝんゝ。ゝ。ゝ。ゝ人
殺ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
の前ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ



切後にて付られんとぞ中立て松秋色音こ宮はなはだ
くるしかりしかるに母の御前より新月より出賜り給く神奈川の
母の許へ遣りくるべきの方へ参りそばく始終
と書付に曙より涙ぐまれ書るして切後とり参らせ
さるのふいらとくいたもせられすとて
母は暫もこらべ早無れかりく出たれ美しかりし
明ね山門廊下の伝ふて
乃素りく。とりくふ泣ー。今こそ客殿のまあり
しさあの乃脇とそて切ぶて斜よかるるぶ人の
紙乃ひいぐるふめるに増く程てるくいこれば
こそ二人乃紙さ給ふん。義さあぐ云とゆふぐいく涙
ふれて見物中つくく集りこれば
ひそめく

法ふ彩しき赤猫大勢つきくありく。御門よかれとて
これ出けひまきくるやうりぬくかるる後
乃涙拭ふぐるる素の紙づて涙英上下。識見ぐ
らこそこそとん涙しのよ。年新婚乃粧乃立るは
歌乃涙ぐー。寺中乃方に笑おくれ
ん山桜乃ぬとくるれと称めて。御母年花嫁指後
美見人ぐと。涙ぐーるる宋女ぐるくとかくらくいふる
ぐー。綿乃縁れー。年ぐ小度して。御嶋の吉川助兵衛
拭ぐ美ーげる押切巻紙よ包く見ん新婚
川乃母の許へ今れ新ん使ふ云送り給ふ
玉へ。高紫家とまくりて生去必滅乃理とぞ
給へば世よ長生とる美人賛ーとまあれど。客

[illegible]て自級の上ふふん事。[illegible]成佛と。
[illegible]より書也乃[illegible]尺五寸。[illegible]小書かへ。祝と[illegible]て。去
い花秋の月ゆ[illegible]れく。[illegible]色衣のまゝゆめて
書ゑく。のあや服かさ切まび仏情ちく之のけ小宮女
[illegible]して。服橋破まび。[illegible]色貫りて折ぬ。
今年十六十八と一紙として。寛永乃[illegible]の赤り閑[illegible]ぬ。
年法百つゝれし家のふた。ひ義小ゑひわひく。揃書[illegible]
もあり。[illegible]ゝ切く世[illegible]拵く。[illegible]人乃[illegible]花と[illegible]
[illegible]也。今小[illegible]ゝ[illegible]清[illegible]乃[illegible]書ちゆ。二人乃墓と[illegible]
緯世乃哥と位牌よ押く。東乃[illegible]小[illegible]ぬ。
志変[illegible]ぬ世小わ[illegible]く[illegible]ん[illegible]。[illegible]と[illegible]狂と書[illegible]
て。七日小[illegible]り[illegible]義如ぬ[illegible]ゝ義仏[illegible]ぬ[illegible]ゝ

長屋住の凡[illegible]清い山吹乃盛
[illegible]野と[illegible]小流[illegible]と[illegible]小[illegible]
[illegible]侍四川[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]年乃[illegible]ゝ[illegible]小[illegible]び
[illegible]ゝ[illegible]英[illegible]なり。[illegible]松山[illegible]ゝ[illegible]清人乃
[illegible]尾[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]六百石[illegible]流[illegible]
滝乃[illegible]て[illegible]流[illegible]
出[illegible]髪乃[illegible]大振袖[illegible]鞍乃大小。
[illegible]の小細[illegible]山吹乃[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]射乃[illegible]人杜丹[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

はんぎとよんでて横目らき坊主二人めつまらんし
ゆるゆるのまくらをたのまれて大うるあるんはかぞね。
男のうちとられくれかぶ人の法師を酒横塩の常
小ぶてこびこ子出あ。紅あく小六の宮の老して相級
あ所は門より入り。辻番の小弱くまれ。奥川主る
あ。てして法小姓の中絵りうちをを義よ
お分のお髪見通しぬれ目色は門先小三蔵。法玄云
を外よあれば俄よ悩つそらくは賜戸清横町武町めの。
南横町よ棚とうくかとは小。三月廿四日より四
年の十月初つくこ。毎日通へど二つびは面新とうるう
うくふして歌く使りるく。鳴蔵寺より麦らるく中に式
図の寺は賜とトされ。祇三月廿五日にて戸は殺るよ

極りは何ふまとりとあひ三俵よかり宿仕義。ん
ふ所は乃そと麦拂ひ酒屋ふ流ー小者少色賜と
ら也。独りとありく。法は大名乃伝えのびもふを目を
金川泊つもおけの目大機よ蔵く。鳴三沢乃麦小意
ゆ実ふ乃蔵義と三さを演乃かこのとまはるく。
ふあはかを表まうれ古ふとゆうじておりうるれ服
と居くうん迄ばん合法ひ。寅氏別きくえるうるか
く。祇ふ小麦法とーどう宮ぼれ山の切通ー神祠岩の
法よ法ま麦祠窓と賜ー。ゆうどを潜法ーに意者を
ふよかう和ーや干場あ所は異ど也して。姫姫色ん
ー法ー。あ氏祇法よ懐れ。見氏主ま沢ーよそれーりね
新を世ばこくやうく低別乃津山そんなあ出雲

乃國ふかく世に流るる業とて、揚ふ肩といふまでもそ年七
月の初より民部とて乃中
ふたもん合の業乃流し揚汐乃坂乃森まく
三ぶんさり又ほ諸を年毎日屋敷乃外より
銀ぐ。ぬもおもくいて京乃迎民ぐ
乃乃の程とちぶ乃ぶ様ふ猶悔とおとろへるは
又ふ乃国果ありあけの年又四ぶふ
見物く三年を方と拵乃神ほ製穂かく綿
とあり。編指ぐろふ門く金言乃富ぐ
して宗盛ろるひ入ぶ乃ぶるもぶ男とん宮ぬ
ハ紙ふ枕ふと色つるりと。京ふ極く自弦と義よ
ぶろ横目乃遠ぐふ。ぬまくせめくいる業とかり

くふひ時しかく中山乃松陰よ行せるふ男ハ迎付
かぐくぬ時ハ行方もぬれど何ふもぬれふおぶ
乃ろ乃ぶ出ろくくて情ふ。ぬ入四乃十日もる
く。ぬた乗乃出ぬ云よ乗ふ見とるまぬ。ぬ乃乗
ふて浮世ぬかろふ近。寝乃金。京の程かくふり
くもひ乃と憤。物ぬぐ神ぬとふく物乃乗ぬ
義盛ふよげ。乃乃嵐ふ見とぬめ。屋乃内ハ野と乗ふ
思ひぬ和浦ぬく。ぬ通り深ふろと。ぬと楽よ毎和
ぬ門お小通ひぬぬ時ぬ乗乃ぬ乗ぬと潜よ時ぬ
ぬる和乃淋ぐ。ぬ浦乃侍乃ふよ。ぬ。ぬいまぐ人と
ぬ乗ぬく切ぬる。ぬ。ぬ時よ指ぬとくハふぬ
。ぬ北今乃中ぬ。ぬ。ぬ。

乃程常〻見さかしにおこれさせ給ふるゆゑの恥じ。是乃
よくとゆえのうごめもとゝのべ。時節とけ結ゝ
給ふ人とゆゑの恥じ。完おむろひ屋敷乃大達と
見るに世よわりく甲斐なに恥人めに何ゝそ色孔ひ
と叶へ。そ仏よ命とゝるゝ同へと作せ〻侍おれ分よ
色情むに命ゝそれゝ食ぶ枕ゝく立者。卒ゝ
形ぐ〻ゑんわり。世乃はれ墓なにゆとゝふ。人ゝ一生
に今後あの時乃色宮めぐ〻。妹ゝを方魂ひかと
あり。ぐ〻く豆のあさまぐ。我〻が者〻あ旦那の色仏
ゝそ色三十日郷ひのゝ暮さ世。そゝ見なかあり〻ふあり
あぐ。仏吊ひ〻くの出るゝ。ゝ場借りゆせぐ。男おを色
欲ぐ。迷色去とまゝふ方の宮和の雑義ゝ〻くゝ

鳥色絵にかきなり。ぬきに親れの赤色なりけまびがさをてと
ぐひちくの面に山方彩ひの雲ほとに色わぐ所と。解毒よ
つまくくめとやわぐれい。光彩あとさせ。備前の指よ碧
させ中ほ彩屋よ入。あ方ま十月ぐ乃鉄立とこ。ほく。
乃りく的。絵朱の見切あれば。廣庭ふ釈ふ。くこ引出。
己命とくれ。仮りいあ。地人前さ。のべ。ほ手形と
や。待ふいこ。白別よ彩下切付れく。胴貴色鉄ぐ。ぐ
編指双引也。つまと色見とふ。ぎれ時下。ぬ。ぐ中門の
外よ退出。書院よ座して。按男ふ色とあげさせ。方
いん見て。こ。りぐ。ぬいい待て。こ。彩ふ。ぬ。ぐ時人乃稲員とり。
やく。源。ふ。ぬ。彩よ挑ん清かぬ。こ。ほ入ん清ち。
今とあ門く包。ひ。ぐ乃世よ。ほ。ふ。清りふぞ。板い秋ん

蓋入かく行せ。ぐ所。那。ぐ。り行の按よ色の迎。ぐ。ほ。ぐ。あぐ
まこ。椅地乃。御の寺鏡。ぐ。こ。ぐ。恐まあぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ色。果ど。流。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ

作付る所の田つとゝ流され、まる宿ゆりて、そ日より流人と成
れとなぬ大山と流し、今切の渡しまでおけよなれ戸乃そ。
乃元亀色して、おとまりの内ゆるゝ出あるべ、それより
廿日目小田門出ゆるゝれ、そ上九地の時服又童金ゑ二十両
以新まゝ、ゑひ乃外あり前尾あり流人のまゝ日見まゝく
ゆゝ人送りヤせ、れ出ゆ、あ雑さ、乃世ゝゑひれ思へと
ゝるべしと、ゆとまゝ、猪八家ゆ十二月廿七日ゆるゝとむそ
見送るゑれ参庵より国ゆ人ゝ、東武ゝゑゝ下らば、和乃
曽我の山ゝ、く。桜の丸丹のあゝ宝れ流れ住居ゝて賛
茂切小茂ゑ場と名ゝ、拍ゝ乃外ゆ出ゝ、垂坂の奥流く
岩乃づゝ、ひ乃苑の流れ、お河を住まゝ、ゑと封ゝく、聖ゝゑの流と
樂ゝ、ゝ、ひ乃清水ゆ、今世小美ゝと面ゝと時花扇ゝ人ゝ拍ゝと 注